ヴィント。

一柳　紘哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ヴィント。

【Ｎコード】
Ｎ３５３３Ａ

【作者名】
一柳　紘哉

【あらすじ】
季節に関係なく緑な丘。小さな疲れた小人。これは、詩です。

目が覚めたら青空しか見えなかった。　とても気持ちがいいな。寝ころんだまま、いつまでも何時までも眺めていたくなるような綺麗な空だ。
体を撫でていく風は草の臭いでいっぱいで、あんな事があった僕を癒やしてくれる。
ヨイショと声を漏らし、体を起こして周りを眺める。
小高い丘のこの場所は、まるで春のように草花が咲き、なんて言うのかな、あまりにも綺麗で泣きたくなる。
草花の隙間から疲れた小人がでてきて僕にたずねる。

「おやお久しぶりですねぇ、もうここにはこないのかと思いましたよ。
それにしても“アレ”は残念でしたねぇ私はあなたは悪く無いとは思っているのですが、なにせ村長が頑固者ですからねぇ……」

「いや、“アレ”は僕も悪かったんだ。まさかこんな事になるとも思わなかったしね。
ハハ、言い訳だよね」

「とんでもない。私も同じ意見ですよ。村長が分からず屋なだけですよ、深いところを勘違いして理解してしまった村長が悪いのです。いや、それにしても私は好きなんですよ、“アレ”もう一度聞かせていただけないでしょうか？」
「まぁ……いいですよ。あ、いや、ごめんなさいね
ヨロコンで」

笑顔の小人は近くにあった小石に座り、軽く目をつぶった。

僕は背をシャンと伸ばして、ゆっくりと息を吸い込んだ。そして
北風のように冷たく吐き出しながら、僕は言った。

太陽が空にあって月が斜めに見える。
初めての星は輝くのをやめた。
この絵はだれのものかしってるかい？
いいや、知らない。
風の中の緑の虫は泣きながらさまよい。
足の裏の小さな星は一人にしてくれと叫んでいる。
この音楽が何か知ってるかい？
いいや、知らない。
ガラスの雪に触れれば音もなく崩れさる。
時の針は指先に突き刺さる。
水が冷たくてお湯が暖かいしってるかい？
いいや、知らない。
炎はユラユラと歩き回り紫色のガスをだす。
光の中から顔をだす目は溜め息を流す。
この臭いがわかるかい？
いいや、知らない。
地を這う獣は自分の首を切り落とす。
罪の木から落ちた赤い果実。
この味がわかるかい？
いいや、知らない。
疲れた涙は大地を彷徨い、蒼い荒野は灰の密林。
輝かない中指の前で。
あなたは何を感じるの？

小人は、私は好きですよ。と言い残し消えた。
小人の疲れだけが小石の上に残ってる。

小人の疲れは僕に尋ねたんだ。貴方はだれですか？と。
僕は答える。いいや、知らない。と。
僕は空を眺める。
疲れは風に流される。
いいや、知らない。
何も知らない。
星が消えた理由も、この丘の場所も、大地の理由も、風の行方も、水の中にある炎も、干からびた太陽も、そして、好きなものも、嫌いなものも、探していたものも、僕が誰なのかも、疲れが風に流されたのかも。
何も、いいや、何も知らないのだ。

（後書き）

読んでいただきありがとうございます。
詩とは何か？という疑問から書き始めました。
いまだに詳しくはわかりません。
とにかく、読んでいただきありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3533a/

ヴィント。

2010年11月5日07時02分発行